



## 財団概要

### 1 沿革

当財団は昭和44年（1969年）に山之内製薬からの寄付を基金として発足し、疾患の成因の生化学的さらには分子細胞生物学的な研究および薬剤の生体内代謝の研究に助成し、がん、生活習慣病をはじめとする各種疾患の機序解明、治療薬の進歩に貢献してまいりました。

平成17年4月山之内製薬と藤沢薬品工業とが合併しアステラス製薬の誕生にともない、藤沢薬品工業が主たる出捐者でありました医薬資源研究振興会の事業を病態代謝研究会が継承する形で平成19年4月に財産を引き継ぎました。医薬資源研究振興会は、昭和21年（1946年）に設立され、昭和47年以降、薬のシードとなる新たな天然物を中心とする創薬資源の探索と応用研究に助成し、我が国の創薬探索を支援してまいりました。新生「病態代謝研究会」は、疾患の機序解明と創薬資源研究を融合的に進め、病気のメカニズムを踏まえ、分子標的に対する多様性をもった創薬資源からの画期的新薬の開発、および臨床における安全性と経済性の整合的な利用を開発する研究を助成する活動を行っています。

平成20年12月1日からの公益法人改革関連三法(新法)施行に向けて、ほぼ1年前の平成20年1月から財団事務局として公益財団法人への移行検討を開始しました。その後、移行検討会を立ち上げて議論を重ね、6月21日開催の理事会で公益財団法人への早期移行を決議、新法施行後の平成21年1月7日に厚生労働省に「最初の評議員選任に関する許可申請書」を提出、4月20日に許可を得て4月28日最初の評議員選定委員会開催、5月28日に移行申請書を内閣府公益認定等委員会に提出しました。7月16日の公益認定等委員会による第1回ヒアリング後、幾多のやり取りを経て、平成22年3月23日に内閣総理大臣より認定書を拝受いたしました。平成22年4月1日に公益財団法人への移行登記を行い、移行申請書通り「アステラス病態代謝研究会」と財団名称も変更いたしました。

### 2 目的

当財団は、生命科学研究、とりわけ創薬・治療法の開発・実用化研究を奨励し、国民の保健と医療の発展および治療薬剤の進歩に貢献することを目的としております。

### 3 事業

当財団は、前項の目的を遂行するために次の事業を行います。

- 1) 生命科学研究の助成
- 2) 研究業績資料に関する刊行物の発行および講演会、講習会の開催ならびにその助成
- 3) その他、当財団の目的を達成するために必要な事業

### 4 事業内容

本財団の目的に沿う研究への助成事業、研究報告会開催、刊行物発行等を実施しています。その主な概要は次のとおりです。

#### 1. 助成事業

##### 1) 研究助成・海外留学補助

画期的治療法開発をめざす臨床からのニーズ研究、基礎からのシーズ研究およびそれらの開発・実用化に貢献する研究に対し、研究助成金並びに海外留学補助金を助成

**<助成対象研究>**

- ①がん・生活習慣病、あるいは精神神経疾患などの疾患に係わる遺伝子、タンパク質、病態、診断法、治療法などの基礎的および臨床的研究
- ②合成化合物および合成技術、天然物、抗体医薬や核酸医薬を含むバイオ医薬、細胞治療、DDSやイメージング等の先端技術の開発とその応用など創薬科学全般に係わる研究
- ③細胞生物学、ゲノム科学、構造生物学、システム生物学などの基礎生命科学研究
- ④上記3領域の融合的研究

**<特色>**

「創造的かつチャレンジングな萌芽的研究」、「個人型の研究」、「女性研究者」、「教室を立ち上げたばかりの研究者」を支援。

**<助成交付者数・交付金額> (病態代謝研究会のみ)**

項目	期間	交付者数	交付金額
研究助成金(研究奨励金)	S44年(設立)~H22年	2,897名	2,118,300千円
海外留学補助金	S58年~H22年	361名	257,600千円
総計		3,258名	2,375,900千円
最優秀理事長賞	H16年~H22年	(15名)	15,000千円

注1：最優秀理事長賞は副賞ですので研究助成金とは別に集計。ただし、受賞者全員が研究費として使用していますので、助成総額は副賞分も含め2,390,900千円とさせていただきます。

注2：平成19年4月に事業継承した医薬資源研究振興会分との合算累計：

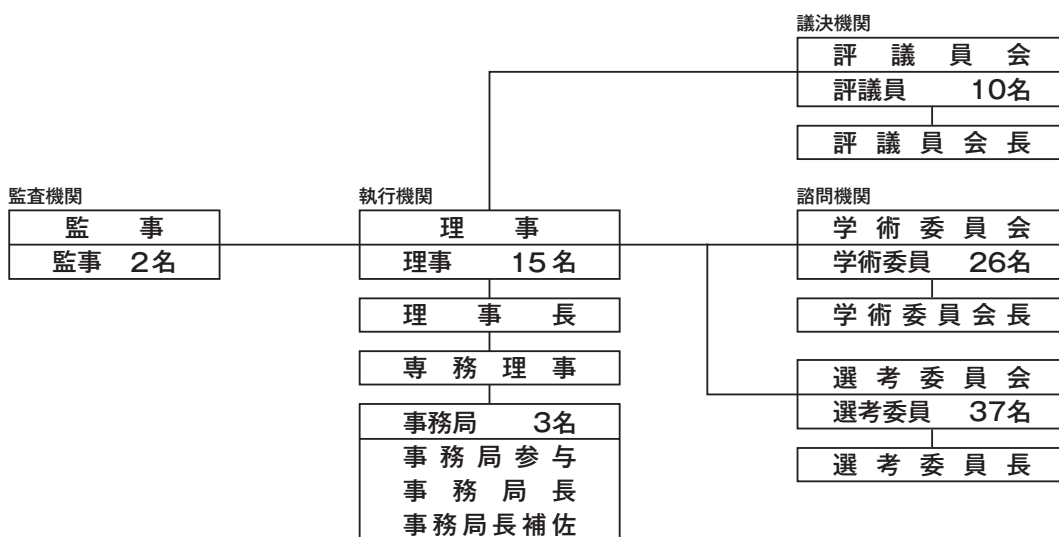
交付者数：4,620名、交付額：3,624,800千円

**2) 研究報告会**

前年度に交付した研究助成金により実施された研究の成果発表を目的に毎年10月に研究報告会を開催。

**3) 刊行物**

- (1) 財団報：当財団の一年間の活動をまとめて、機関誌として発行。
- (2) 助成研究報告集：研究報告会で発表された研究成果を研究年報として発行。

**5 組織と人員 (平成23年3月31日現在)**

## 6 評議員・役員・職員名簿（平成23年3月31日現在）（五十音順・敬称略）

### ■評議員 評議員会長 評議員

竹中 登一	アステラス製薬株式会社
磯部 貴子	国立清華大学（台湾）
江端 一夫	衆議院議員
神谷 公道	神谷税理士事務所
佐藤 享男	安田女子大学
猿田 雄一	慶應義塾大学
杉山 尚子	東京大学大学院
田嶋 憲一	東京慈恵会医科大学
長嶋 哲生	東京21法律事務所
野田 哲生	癌研究会

### ■理事 理事長 専務理事 理事・選考委員長 理事

（兼学術委員長）

児玉 龍彦	東京大学
石井 康雄	アステラス製薬株式会社
門脇 孝	東京大学大学院
小川 久雄	熊本大学大学院
堅田 利明	東京大学大学院
倉智 嘉久	大阪大学大学院
後藤 由季子	東京大学
杉浦 幸雄	同志社女子大学
須田 年生	慶應義塾大学
塚本 紳一	アステラス製薬株式会社
中里 雅光	宮崎大学
長野 哲雄	東京大学大学院
藤井 信孝	京都大学大学院
泉二 登志子	東京女子医科大学
武藤 誠太郎	アステラス製薬株式会社

### ■監事

大山 悦夫	税理士法人 タックス・マスター
永井 修	アステラス製薬株式会社

### ■学術委員 学術委員長（兼理事） 学術委員

後藤 由季子	東京大学
一條 秀憲	東京大学大学院
稲葉 俊哉	広島大学
井上 将行	東京大学大学院
上田 啓次	大阪大学大学院
大隅 典子	東北大学大学院
大谷 直子	癌研究会
小川 佳宏	東京医科歯科大学
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院
笠井 清登	東京大学
熊ノ郷 淳	大阪大学
塩見 美喜子	慶應義塾大学
袖岡 幹子	理化学研究所
高柳 広	東京医科歯科大学大学院
竹居 孝二	岡山大学大学院
徳山 英利	東北大学大学院
長澤 寛道	東京大学大学院
中村 栄一	東京大学大学院
中山 俊憲	千葉大学大学院
根岸 学	京都大学大学院
南 雅文	北海道大学大学院
三輪 聡一	北海道大学大学院
柳田 素子	京都大学
山下 敦子	理化学研究所
山本 一夫	東京大学大学院
若槻 壮市	高エネルギー加速器研究機構

### ■職員 事務局参与 事務局長 事務局長補佐

山下 道雄	アステラス製薬株式会社
石川 弘	アステラス製薬株式会社
尾崎 まり子	アステラス製薬株式会社

なお、事務局員として千葉みゆきが平成22年10月16日まで勤務しました。

## 財団法人「病態代謝研究会」設立趣意書

近年医学の進歩は誠に目をみはるものがありますが、その原因の一つに医学的研究の手段として、物理的、化学的手段が大幅に導入されつつあることを挙げる事が出来ましょう。

医学の研究は、人体を形態的な面から追求することにより始まり、長い年月と多くの研究によって解剖学、組織学等の形態学が発達し、やがて、機能面の追及により、生理学が発達して、今日に至りましたが、生理学から、化学的分野が分化独立して、新しく生化学が体系づけられ、近代医学の基礎が作られました。

従来、形態学的、生理学的に捉えられていた疾病像が化学的に追求されるに及んで、人体に関する知識も革新され疾患の診断並びに、治療を、生化学的な目で見直す時期に到達いたしました。

その後、生化学の著しい進歩によって、生命の根底をなしている蛋白質の生合成、核酸の役割等が、次第に明らかになり、今や人体の機能は、分子の段階で解明されつつあり、分子生物学と呼ばれる新しい生物学も台頭してきています。

このような生化学の進歩に伴って、疾病の診断および治療上、生化学的所見が極めて重要な要素としてとりあげられるに至りました。

しかしながら疾病の把握は、病理学や病態生理学に生化学的視野を加えて、始めて完全となるのかかわらず、生化学一般の目ざましい進歩発展に比し、病態それ自体の生化学的研究はまだ必ずしも十分体系づけられたとはいえません。従って現在各種疾患に対して更に高度な病態代謝学的アプローチが強く望まれております。

このような背景のもとで、私共は、疾病に代謝の面から光をあて、病態代謝学的研究を助成し、疾病の発生機序、体質および老化の機構を生体代謝または、分子生物学的観点より追及し、併せて、その治療薬剤との関係をもあきらかにすることにより、医学、延いては、薬学の未開の分野を開拓し、国民の保健および医療の進歩と病態生化学の体系化とに些かなりとも貢献することを期して、この度、財団法人「病態代謝研究会」を設立し、寄附行為記載のごとき事業を行なおうとするものであります。

(昭和44年7月31日 財団法人 病態代謝研究会 設立許可申請書より原文のまま転記)

## ご寄付の報告とお願い

平成22年4月から平成23年3月の1年間に、医薬資源研究、病態生理・薬理研究、画期的な治療法を早期に生み出し、すみやかに患者さんの手元に届けられるような研究の奨励の一助にと、下記の通りご寄付をいただきました。頂戴しましたご寄付は研究助成事業の推進のため有効に活用させていただきます。

アステラス製薬株式会社 様	40,000,000 円
竹中 登一 様	200,000 円
浅野 雅晴 様	200,000 円
山下 道雄 様	50,000 円

当財団は今後とも研究助成事業を通して、より幅広く生命科学分野の研究に貢献して参る所存ですが、そのためには更なる事業基盤の充実が必要です。こうした趣旨をより多くの皆さまにご理解いただき、当財団へのご寄付について格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

なお、当財団は平成22年4月1日から公益財団法人に移行しました。公益財団法人は、教育または学術の振興、文化の向上、社会福祉への貢献その他公益の増進に著しく寄与するものとして認定された法人で、これら法人に対して個人または法人が寄付を行った場合は、その個人・法人ともに税法上の優遇措置が与えられます。詳しくは当財団事務局（電話：03-3244-3397、Eメール：byoutai@jp.astellas.com）までお問い合わせください。



# V 東日本大震災後の対応

## 1 お見舞い

平成23年3月11日14時46分に発生しました東北地方太平洋沖地震およびその後襲った津波による未曾有の大震災によりお亡くなりになりました皆様のご冥福を祈りますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

幸い役員の先生方を含め当財団関係者には、研究室などが甚大な被害に遭われた方はおられますが、大きなお怪我などはありませんでした。私ども事務局メンバーも会社であるいは先で地震に遭遇し帰宅することが出来ませんでした。それぞれ色々な方のご厚意を受けて寒さに凍えることもなく一夜を過ごすことが出来、地震発生から24時間後には各自それぞれの自宅に帰り着くことが出来ました。鉄道の運休により、数日の自宅待機を余儀なくされましたが、その後、電力不足の影響を受けながらも、財団活動に関しては、速やかに通常の状態に戻すことが出来ました。

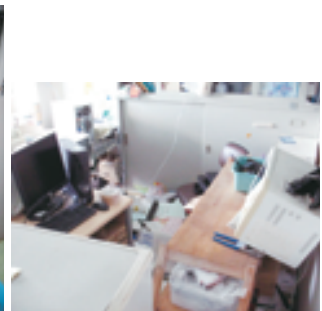


当初は、節電対応のためうす暗い事務所で仕事をしました。

## 2 緊急研究助成金公募に向けて

当財団役員の先生方の安否確認をする中で、東北大学や、つくば市内の研究機関の被害の大きさが明らかになってきました。復旧には相当の月日が掛かりそうだとの情報もあり、当財団の前身母体の1つである医薬資源研究振興会の設立時の藤澤友吉氏の「敗戦により廃墟となり、資源も何もないところから再起するためには無から有を生ずるような科学および技術の振興を図る必要がある。医薬品の資源の調査、研究に資金と人材を投入し、人類最大の災禍の一つである疾病の予防と治療に資する医薬品の研究に力を尽くしたい」という思いが頭をよぎりました。この大震災の被害は敗戦当時の状況に近いものがあります。当財団は藤澤氏の思いも受け継いで公益財団法人として活動しているので、現在ストップしてしまっている生命科学研究を一日も早く復旧するために役立つ活動こそ当財団らしい活動であり、すぐに実行出来るかを探ってみたいという思いを強くしました。そして、事務局内で議論をしたのち、理事長、主要役員、内閣府等に相談し、「緊急助成金交付事業」を現行の公益事業の延長上で実施することが決まりました。内閣府からは、定款を変えることなく実施可能との見解も得ました。

実際の公募は平成23年度になってから実施しましたので、詳細は次の財団報でご報告いたします。



東北大学大学院理学研究科・上田実教授ご提供

茨城工業高等専門学校・鈴木康司教授ご提供

財団ホームページ（<http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html>）より

公益財団法人アステラス病態代謝研究会  
 Astellas Foundation for Research on Metabolic Disorders  
 2010年4月1日 病態代謝研究会は公益財団法人に移行しアステラス病態代謝研究会となりました。

▶ 個人情報保護基本方針 ▶ 個人情報の取扱いについて  
 ▶ お問い合わせ ▶ サイトマップ

応募要領の一部が変更となりました。変更点のまとめはこちら

本財団について	研究助成金・海外留学補助金	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ご挨拶</li> <li>▶ 創設の経緯</li> <li>▶ 創設の歴史</li> <li>▶ 評議員・役員</li> <li>▶ 機関公開</li> <li>▶ 国との関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 趣意</li> <li>▶ 研究助成金応募要領</li> <li>▶ 海外留学補助金応募要領</li> <li>▶ 採択者一覧</li> <li>▶ 選考委員からのメッセージ</li> <li>▶ 過去の受賞者からのメッセージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 刊行物</li> <li>▶ G&amp;A</li> </ul>

メッセージ

この度の地震・津波等により被災された皆様によりお見舞い申し上げます。  
 一日も早い回復と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

お知らせ

お見舞いメッセージを掲載

公益財団法人アステラス病態代謝研究会  
 Astellas Foundation for Research on Metabolic Disorders  
 2010年4月1日 病態代謝研究会は公益財団法人に移行しアステラス病態代謝研究会となりました。

▶ 個人情報保護基本方針 ▶ 個人情報の取扱いについて  
 ▶ お問い合わせ ▶ サイトマップ

## 緊急研究助成金応募要領

トップページ > 緊急研究助成金応募要領

■ 研究助成の趣意

東日本大震災で被災された広島の生命科学研究者のうち、当財団の設立趣旨に合う個人型研究、萌芽的研究を実施していた研究者が施設や設備の損壊等でその研究が一時ストップしているような場合、別の研究機関に移動して研究を再開・継続するために研究者を派遣するための費用、あるいはそれら施設・機器・備品等の補修・修理・購入費用を緊急に支援することで速やかな研究再開・継続を応援したい。

■ 応募資格

応募資格

東日本大震災の被災地域（東北および北関東を主な対象）内で所属研究機関の実験施設・装置・機器・材料等が被災したことで現時点で研究再開・継続が困難であり、かつ当該研究が同年実施している通常の研究助成の趣旨に合致する個人型研究（萌芽的研究）を実施している、あるいはしようとしている研究者  
 （性別は不問です。本緊急研究助成金は通常実施の研究助成金の交付回数にカウントしません。）

金額

総額1,000万円程度（1件50万円（20件程度））  
 ※応募数が多い場合、1件当たりの緊急助成金を減額し、より多くの被災研究者に交付する場合があります。

募集締切

第1回締切：4月18日  
 第2回締切：5月28日

緊急研究助成金公募（実施は平成23年度）

## 編集後記

ここに、アステラス病態代謝研究会の機関誌「財団報」の第4号（平成22年度版）を予定通り発行する事が出来ました。これもご協力頂いた多くの皆様のお陰です。この場をお借りして深謝いたします。

平成21年（2009年）5月28日に公益財団法人への移行申請を行い、本誌34ページにまとめたような経緯で、平成22年3月23日に移行認定書を取得、4月1日に移行登記を行い、公益財団法人アステラス病態代謝研究会としての新たな一歩を踏み出しました。公益財団法人としての最初の1年間の活動をまとめたものが、この「財団報」第4号です。

公益財団法人移行を機に、法律の求めに応じて組織体制が大幅に変わりました。女性役員はさらに増え、役員若返りも図られました。こうして発足した新体制の下、平成22年度は、移行1年目ということの不慣れな点多々有り、新しい法律や定款に沿ってきちんと財団を運営することに腐心するとともに、公益財団法人に相応しい活動をするためには更にどう改善していくかを探る1年でもありました。役員の方には、その時々で活発なご議論を頂きました。本当に有難うございました。

移行に合わせて当財団ホームページ（HP）をリニューアルし、選考委員や研究助成金・海外留学補助金交付者からのメッセージを掲載しました。これにより財団の可視化がさらに進みました。幸い、HPのリニューアルは大変好評です。ぜひ一度アクセスし、ご覧頂ければと思います。平成22年度の助成金等交付者中の女性研究者比率は、研究助成金が20%、海外留学補助金が40%と過去最高でした。

毎月好評である受賞者・交付者からのご寄稿文ですが、本号でも、当該年度の最優秀理事長賞受賞者および海外留学補助金交付者には全員に、研究助成金交付者につきましては、所属研究機関、研究テーマ、年齢、性別等のダイバーシティ（多様性）を考慮して10数名の方にご執筆をお願いしました。幸い、そのほとんどの皆様からご快諾を頂き、心のこもったメッセージや、研究に対する情熱・意気込み、若手研究者への励ましの言葉、留学中に感じたことなどがそこここに散りばめられた素敵なお写真をお寄せ頂くことが出来ました。お陰様で例年同様、あるいはそれ以上に素晴らしいものとなりました。大変嬉しく思います。有難うございました。

このように多くの方々を支えられ、公益財団法人に移行後の財団活動もより良い進化を遂げることが出来ました。ひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝しております。今後ともご支援ご協力の程、お願い申し上げます。

3月11日の地震以降、気分が落ち込む中、追い打ちを掛けるような原発事故による節電対応で仕事の効率も落ち気味でした。また、緊急研究助成金交付活動を通常活動に付加する形で実施しましたので、本号の編集作業はととても大変でした。昨年12月から時間を見つけて細々と編集作業を進めておいて良かったとつくづく思いました。ご寄稿文も皆様から早目にご提出頂き助かりました。また、寄せられた原稿を読みながら例年通り、皆様がとても感謝して下さっていることが伺え、我々の活動が微力ながらも日本の生命科学の発展に寄与できていることを改めて実感することが出来て、とても嬉しく思うと同時に編集作業に力が入りました。

財団活動にご協力頂いた皆様には本号をお届けいたしますので、隔々まで目を通して頂き、ご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

事務局参与 山下道雄

### 財団報 No. 4

非売品

---

発行	2011年9月15日
編集	山下 道雄
発行者	児玉 龍彦
発行所	公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-2-10 TEL: 03-3244-3397 FAX:03-5201-8512 E-mail: byoutai@jp.astellas.com <a href="http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html">http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html</a>
印刷所	株式会社 バスト・プリンティング

---

不許複製 禁無断転載



